

食物アレルギーの経皮感作について

愛媛大学病院小児科・アレルギー科

【食物アレルギー感作のこれまでの常識】

食物抗原の感作経路は、これまで古く、患児自身が口から食べた食物のタンパク質が消化管から体内に侵入して感作されると考えられてきました。そのため、原因となる食物を食べない（除去食療法）が、食物アレルギーの予防としても、治療上も唯一の最善な方法とされてきました。

母乳食を開始する前、まだ生まれてから一度も食べたことのない食物にもアレルギーになることをしばしば経験します。その説明として、経口的感作のもう一つの経路として、「経母乳感作」が提唱され、授乳中は、母子ともに食物を除去するよう指導されてきました。

【二重アレルギー曝露仮説について】

2008年 Lack 注は、食物アレルギーの発症に関して、皮膚などにより皮膚のバリア機能が障害された皮膚表面からは、環境中の卵やダニや牛乳などの抗原が経皮的に侵入（経皮的曝露）して食物アレルギーが発症し、一方、「経口的曝露」では耐性が誘導されるという「二重アレルギー曝露仮説」を提唱しました（図）。



食物アレルギー発症についての二重アレルギー曝露仮説

(Lack G: Epidemiologic risks for food allergy. J Allerg Clin Immunol 2008; 121: 1331-1339)

食物アレルギーが、この仮説通りに全て「経皮的曝露」で発症するのはまだ不明ですが、顔面や体幹・四肢の外側など、肌を露出している部位に湿疹が分布する乳幼児のアトピー性皮膚炎の場合、「経皮的曝露」が主要経路であることは確かだと思われています。

【スキンケアは食物アレルギーの予防と治療の基本】

湿疹などで皮膚のバリア機能が障害された状態では、経皮的に卵や牛乳などの食物抗原やダニ・花粉などが、毛穴から経皮侵入します。

皮膚に食べ物が付いて汚れたら、こまめに洗ったり、拭いたりすることは、食物アレルギーの予防として重要です。また、湿疹があるところは、ステロイド軟膏を含む外用薬で、早期に治療して皮膚の改善をはかり、改善後にアセロリンや保湿剤で保護することは、湿疹の再燃を予防し、寛容化を促すためにも、重要な治療です。

【環境中の抗原を減らしましょう！】

家庭が行っている部屋のカーペットには、ダニが1畳半の大きさで約100万匹いるとされています。ダニ以外にも、人のフケや髪の毛、動物の毛、花粉、お菓子のカスなどで、カーペットは汚染されています。鼻息を漏らして汚染している、抗原を皮膚に近づけているのも同様で、「経皮的曝露」の原因になります。

お菓子は、食べかすができるだけ床に落ちないように注意し、環境中の抗原を減らすように気をつけましょう。